

□連載小説 17

# キリシタンの墓

小山 牧子

え・石阪 春生

## 父と娘 (2)

あらずし 二年前短期大学を卒業した佳は、母親蘭子との生活の息づまりを感じ、米国系海運会社のエージェントに勤めに出ることにした。ある夜ボスのヒギンズ氏とともに訪れた願成寺の墓地の暗がり、村重船長と呼ばれる老人に会い、佳はこの老人から自分の父のかくされた秘密をさぐりだそうとする。そして、その父裕作が七カ月近い航海を終えて神戸港に帰ってくる日がやってきた。

「では、また……」

聞きなれたバスの声を夜の岸壁に響かせ、敏捷な身のこなしでしがりに上陸してきた男、それが佳の父、村林裕作であった。ずっしりと中身がつまっていそうなスーツ・ケースを軽々とぶら下げ、白っぽいトレンチ・コートの背が若々しい。

「パパ……」

猫のように足音をしのばせすりよっていった佳に、裕作はおだやかな微笑と共にうなずき、二人は目の先から山腹に、傾斜した街一帯にひろがる華麗な灯の渦にむかって、ゆっくりと歩いていった。

寡黙なままに歩を運ぶ父には、七カ月近く、わずかな人員で巨船を操る海の生活の言葉では言いえぬ孤独と寂寥感にたえつけ、いまようやく解放された男の喜び

の表情はない。が、佳は、久しぶりに故国の街へ帰ってゆこうとするものの静かに抑制された男の胸にあふれる娘への愛を黙って受け止めていた。

この瞬間、そうだ、この瞬間、いつも鼻の奥がキューンとなって、何か話そうとすると声がふるえて涙があふれそうになっってしまう。だから、佳もまた黙って歩く、黙って……。

「どう？ ケイ……」

ときどき気づまりな恋人同志かなにかのように、裕作が意味をなさぬ問いを娘に発する。と、

「うん。まあどうにか……」

娘もまたしどろもどろに答え、再び沈黙の時間が流れる。

港界隈の暗い倉庫の屋並をぬけると、そこはまばらな灯に彩られたビル街であった。ビルの谷間の底を、海からのぬるまった風が這い、雨期が近づく前の街路樹の葉群は、この石の街では奇妙になま臭くにおうのである。

やがて、ガス体が燃焼しているかのように、街の灯が炎の海となって広がる一角、快楽の街が近づく予感が、二人をそそのかしたのかどうか、

「ケイと一緒に食べようとおもって、船の食事ことわ

「なんだ」

「ま、いいわア、パパノ」

いつもそうであるように、その夜も佳は、港を遠ざかるにつれて本来の言葉と表情を取りもどしていった。しかし、深刻に、こみ入って話すのはまだいけない。また涙が出る。泣けてしまう。だから、つとめて必要以上に子供っぽく振舞っているのだ。

「パパア、ここにケイのおみやげ入ってるの？」

父の手から、スーツ・ケースを引っさらおうとする。

が、それは持ちあげるとよろけそうになるほどに、ずしりと重い。

「まア、パパ。また酒ビンなの？」

「う、うん……」

細めた目でてれ臭そうに佳を見る裕作に、「だめね、パパ。それだからママに嫌われちゃうんだ」

言ってしまったから悪い冗談であったことに気づき、おすおすと父の顔を見る。

「なに会社の連中の頼まれものなんだけど」



「ふん、どうだか」

裕作は、いつの上陸のときも、ジョニー・ウォーカーの黒ラベルやヘネシーなど、スコッチ・ウイスキーのたぐいを関税免除の携帯品として岡に持ちこんだ。裕作自身も酒好きだったことはたしかだが、そんなふうにして手に入れた土産品は、地上勤務になっていくにつれての同僚や上司をこの上なく喜ばせることは、佳もよく知っていた。

「どこかい店があるの？近ごろは、ケイの方が、うまいものの店にくだろから」

「もちろんよ。パパが帰ってきたら一緒に行こうとおもって、一番いってみたいお店行かずにとっておいたの」

「そりやアいい。だったらそこへ案内してもらおうか」

父を迎えに港に行った夜がそうであるように、そのときも佳は、機敏な仕度でタクシーを呼び止め、裕作を先に立てて車に乗りこんだ。

「花隈！」

佳が運転手に指示したスナック・レストラン『薔薇屋

敷」は、国鉄元町駅の構内を山側に抜けたすぐ近くにある。庭に面して鑑く、ばら色の灯に彩色された広いウィンドウは、夜の闇にうきあがると、店全体が、さながら六面にカットされた寶石の塊りに似て華麗であった。が部屋の一隅でむかいあって席についたとき、佳は落付きなくあたりを見わたし、軽い舌うちをした。

「どうした？ ケイ」

「だって、ママの同類がたくさんいるみたいだもん」

佳の言葉の通り、店内には、深刻そうな顔の男たちがグラスを前に黙念と坐っていたり、髪を長くした個性の強そうな女が、何事かをまくしたてているらしく、時折彼等の会話の断片が、二人の耳にとびこんできたりするのである。たとえば、若い女の高い声が、

「私、絶対に一人の男だけを独占する結婚なんて形式のぞまないわ。だって、結婚すれば、必ず相手を不幸にするのわかってるのだから。私の内部にはねえ、悪魔が百匹も住んでいそうな気がするのよ。いいことをする妖精だって少しはいるらしいんだけど……」

すると、すでに朦朧としているらしい男の声で、

「きみは結婚するさ。そして、男を不幸にしてやればいいんだ。ねえ、ママ、そうしろ？ 女なんて、男を不幸にするように生まれてきてるんだ。女というシロモノはねえ、混沌なんだ。コントン……いいかカオス……カオスなんだなア」

日本語で相手に通じている言葉を、御苦労なことに、もう一度、外来語に言いなおしてたたみこむ。蘭子の同類の男たちには、一様にその種のコッケイさがあった。

「佳も文化人が嫌いか？」

裕作のささやく声が笑いをふくんでいる。

「モ・チ・ロ・ンノ」

わざと力んで答える佳の胸には、裕作と二人きりで快楽をわかちあっているに似たときめきがあった。

「ところで、ママはどう？ 迎えにはこないだろうと思っ  
ていたけれど……」

店内には、散りしほむ前の花々が放つ、あの熱れきった芳香がたちこめていた。

「出掛けたわ。歌会があるんだって、こんな夜になにも……」

ひとごとのようにして聞く裕作に答えた佳の言葉を押さえこむようにして、裕作が何度もうなずく。ばら色の照明の中で、佳にむけられた裕作のまなざしは、おだやかになごんでいた。

佳は、妻の蘭子との間に必ず一定の距離をおき、決して怒ったり悲しんだりといった感情の起伏を見せぬ裕作を歯がゆいとおもう。

——なぜなの？ パパ。なぜ？ 愛していないからなの？ わたしは、ママのことについてだっただけでも知っているこの地方都市で、恥ずかしげもなくスキャンダルを振りまきながら、軽薄な文化人ずらをして生きているママ。

近ごろのママは、またうきうきしはじめたようすだけ想像するところ、新しい作品が若い世代の歌よみに受け入れられたらしく、それと時を同じくして、彼等、若い歌人の一人と四、六時中くっついて、口さがない連中がたむろする巷に出没するらしいではないか。そんなふうにして、ママはわたしがもの心ついた頃からずっと、パパの名譽を傷つけつけているのだ。だのに、パパはどうしていつもママをゆるすの？ パパ、どうして？ ——

父と娘が、まるで恋人同志のように恥らいながら二つのグラスを触れあわせたあと、コハク色のワインを唇にはこびながら、言葉にならぬ問いを己れの胸に問い続けていた佳であったが、突然、ある一つの声が電流がつかぬき通るように自分を衝撃するのを感じ、低い叫び声をあげた。声は、絶叫するように細く鋭く佳の内側のパイプをつらぬいたのだ。

——お父さん。たった一度のあやまちだけで、そんなにきびしく裁かないで。あなたに一体、お母さんを裁く権利があるの？ お願いだからお母さんをゆるしてあげて。私が死んでしまってもいい。ゆるしてあげて、ゆ

るしてあげて！

あの声、そうだ、蘭子の部屋から見つけたして、息つくひまも惜んで読んだ由佳子の手記に、ほとんど絶唱のように書きこまれていた言葉。いま佳がその言葉につらぬかれてるように、父の裕作は、何年も何年もその言葉に金縛りにされて生きてきたのではないだろうか。あの娘に先立たれた老人の神からも見放されたかとおもえるおぞましく孤独な姿。

父は、人間が不当に持たされている哉くという権力をふりかざすことの代償の大きさを目のあたりに見て、巧妙にその苦い行為をさせて通ってきたのではなかったか。

店の雰囲気は、佳のファザー・コンプレックスから波生する母視嫌悪症と文化人嫌いの性状を刺激して具合が悪かったけれど、出されてくる料理は拔群であった。蘭子を作るインスタント料理にうんざりしている佳は、スープ、焼肉、サラダ類のすべてを盛んな食欲でたいらげていった。裕作は、むさぼり喰う佳のようすを喜こばしげな表情で見ていたが、やがて、頃あいをはかってゆっくり立上った。戸外は、すでに人通りが絶えていた。赤く塗った古風なボンボリ風の街灯の淡い光りにうきあがる街路樹の若芽におおわれたしだれ柳の枝が、水の流れ落ちる涼味を感じさせる。

くちくくなった腹は、幸福感につながるのか。初夏の歩道を、裕作と並んで歩きながら、佳は、ついに父が帰ってきて佳の側にいるのだという確固とした実感にひたきることができた。



——帰ってきたのだ。パパが、側にいるのだ。明日も、明後日も、その次の日も。パパは、わたしと一緒にいるのだ——

佳は、みたされていた。幸福だった。もう蘭子のことなど、どうでもよかった。

しかし、とある街角にきたときである。流しのタクシィが、すいつくように佳の横で止ったのである。裕作が合図したのだ。裕作は、佳一人を車に乗せていった。

「パパはまだ会社に仕事が残っているから、ケイ、先に帰っていなさい」

途端に、佳の幸福感でふくらんでいた胸はなえしほんだ。

——うそ、パパ、うそだ！

黒い絶望の声が、がらんとうになった胸のほこらで響きあう。

——あの人のところへ行くんでしよう。後生大事に持ち帰った洋酒のビンを手土産にして——

佳の脳裏に、骸骨の風貌で佇立する夜の古寺、願成寺と奇妙な老人の顔がうきあがる。——わたしにかくしてなせゆくのパパ。あのお寺に行くのだったら——

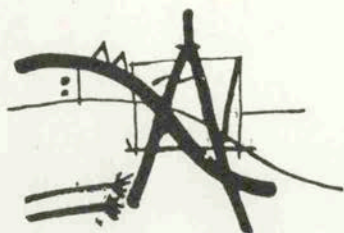
「パパ、わたしも一緒にゆく。わたしも連れていって！」

「馬鹿言いなさい」

強い力で、車のドアが外から閉った。やがて、夜の歩道に哀願するまなざしてたたずむ裕作を、けり離すように、佳を乗せた車がスタートした。

(つづく)

額縁絵画・洋画材料  
室内工芸品

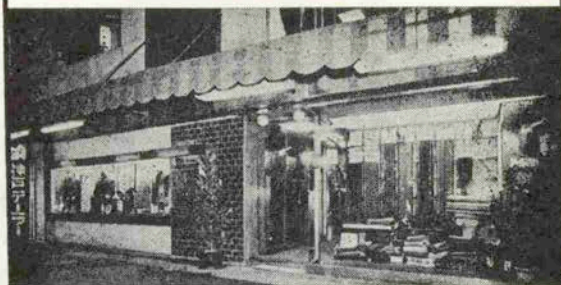


末積製額

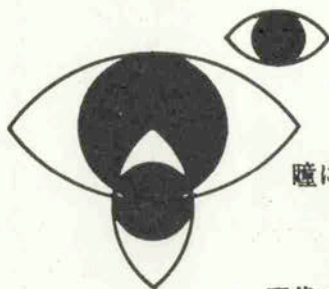
三宮・大丸北  
トア・ロード  
(331)1309・6234

高級紳士服専門店

神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL(391)0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL(331)2817・3173



瞳に美しさを保つ  
スポーツに  
美容に  
現代の科学が生んだ  
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)  
神戸国際会館内 TEL(221)8161・(231)2570

おすし  
てんぷら



栄  
彌



本店 大丸前・三宮神社東  
TEL(331)5772  
(毎週水曜日休み)  
支店 さんちか味のれん街  
TEL(391)5233  
(第3水曜日休み)

営業時間  
A.M.11.30~P.M.9.00

—オリジナル L サイズ—

—草履新発売—

創業明治二十八年

## 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

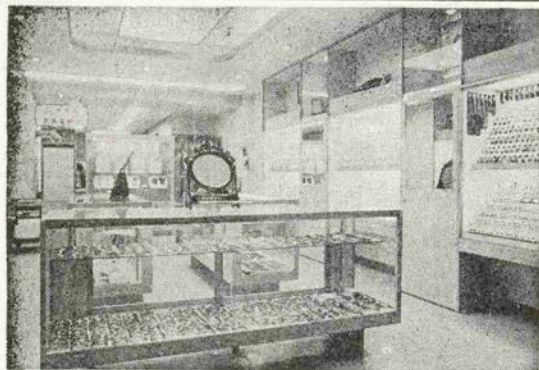
神戸三宮センター街 TEL(391)0256



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

## 太田 鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195



Mr. Kent

came to Kobe

流行に左右されない

本来のオシャレ

それがKentです

シックな

スコッチ風の店舗

それがFunakiyaです

Kent shop

フナキヤ

元町3 TEL(321)0356

お宝

やっぱりうまい  
むさしのとんかつ

三宮  
ムサシ

でんわ・331-3771

321 321-0634  
321 321-0635



おもちゃの

カメヤ

三宮方面でのお買物は……  
さんか店 ファミリータウン  
三宮店 センター街大洋劇場裏  
元町方面でのお買物は……  
元町店 元町通3丁目山側  
パンフ店 元町通1丁目不二駅前  
04045  
04969  
00090  
00768



およろこびの日の  
心からの贈り物に  
カメヤの人形を！



ドイツ風  
居酒屋

keller

生田区北長狭通  
2丁目12-67  
TEL.391-1590



酒徒なれば  
だれもが選ぶ  
灘の生一本  
大黒正宗

清酒 大黒正宗

安福又四郎商店醸

スタンド

# 千景

生田区中山通2丁目75伊藤ビル3F  
TEL 331-9592



★生田神社西門にある伊藤ビルの3階に、スタンド“千景”が誕生した。

3階エレベーターのすぐ前にある扉を押すと、シックなKOBEらしい落ちついたインテリアの中から“いらっしゃい”とママの河野千景さんが声をかけてくれる。和服のよくにあら可愛い感じのママ。バーテンの中西貞成さんも14年のキャリアが、自然に店の中をリラックスなムードにしている。その他に女の子が3人。

「まだカラーが出来あがっていませんけれど、これからいらっしゃるお客様に合わせてじょじょに店づくりをしますわ」と。

水割り(ミネラルウォーター) オールド400円、ビール300円、スコッチ 600円、バーテンの中西さんによる毎日変る小鉢物も魅力の一つ。ビジネスマンや中年の人々にも人気がある。

営業時間午後6時—12時。

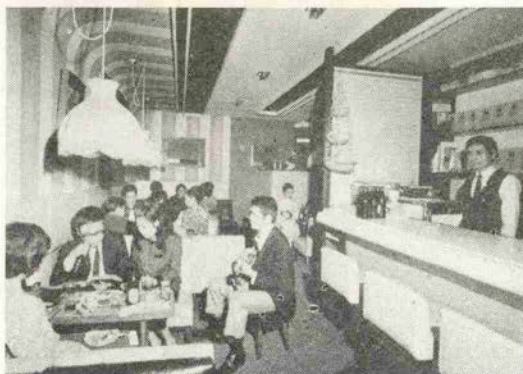


## DRINKING

クラブ

# ジャルダン

生田区中山手通1丁目111  
TEL 331-8589



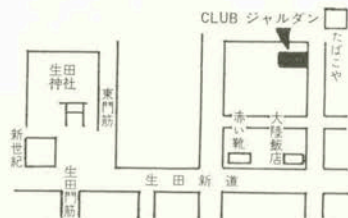
★9月の神戸は青空に始まり、神戸の夜は「ジャルダン」で憩いが始まる。三宮生田新道の大陸飯店を北に上がると左手、トントンと階段を昇りつめるとクラブ「ジャルダン」の花園が待っている。

カウンターで特なバーテンさんを相手にするもよし、ボックスで気楽にグラスを傾けるもよし、またギターに合わせて歌うもよし、日頃のウサもふっくれる楽しい花園だ。きれいな花に囲まれて飲む酒も酔いも誘う。

マスターの岩戸秀能さんとガンちゃんのキップの良さが店に反映して、さわやかなクラブとなっている。

神戸を訪れる人の多い昨今、さあこんなクラブが神戸にもあるのですと気楽に誘い連れてこれる安心な店だ。ガンちゃんと親しくなるほどに店の良さが分るといふから、得なマスターである。

午後6時から12時まで。



# 曲線ハイウェイ

武田 繁 太 郎  
え・横 塚 繁



★あらずじ 浜名湖サーブエリアで、多木洋介は若い神戸の女性、宇津康子と知り合い、一夜を過ごした。その後も、十日か半月おきにデイトの電話をかけてくる康子と、多木はMVハードトップを駆って逢瀬を重ねた。康子の正体を知るため、多木は神戸出身の友達、岡本和彦とその女友達ルミと共に神戸へやって来た。康子の居所を見出せぬ多木は、彼女の面影に似た辰馬英子を紹介された。典型的な神戸っ子である英子に案内されて、神戸の街に出た二人は「デリカテッセン」やガード下の靴屋街を歩いた後、六甲山をめざした。

芦有道路は、幾折りにも屈曲しながら、急勾配に六甲の尾根をめざしていく。

ふりむくと、もういつのまにか、下界は遙か眼下に沈み、その彼方に、大阪湾が青いひろがりを見せていた。ついさっきいた神戸の街なから、あっというまにこの山上まできていた感じであった。しかも、六甲山は、標高千メートルもあるという。

「いいなあ」

多木は、思わずつぶやいていた。

東京にこんな山があれば、どれほどたのしいだろう。むろん、東京の周辺にも、探せば、千メートル級の山がないわけではない。丹沢山系の大山、塔ヶ岳、奥多摩の大菩薩嶺、あるいは秩父の三峰山など、高さからいえば、六甲山よりも高い。

だが、どの山にも、車でドライブをたのしめるような

道一本ついでいかなかった。あるのは、せいぜいハイキング・コースぐらいのものであった。

将来ドライブウェイができたとしても、いずれも、東京都内から、往復でたっぶり一日もかかってしまうほど不便で、遠い。時間的には、箱根あたりのほうが、むしろ近かった。

だいいち、これら東京周辺の山々は、東京の市民たちは自分たちの山だといった親しみを与えていなかった。六甲と神戸の市民たちとの結びつきとは、まるきりちがっているようであった。

「高村千恵子は、東京には空がないと歎いたけど、東京に山がないことも、東京の連中には不幸なことだったと思うな。こうして六甲のようなこんな山に登ってみるとつくづくそんな感じがしてくるな」

「その点、あたしたちは恵まれてるわね。海も近いし、山も近いし」

「そうなんだ。東京は、空もなければ、山もない。海だって、晴海埠頭の品川埠頭だの、ゴミの島だのと、市民たちが氣がるに近よれるような海もない。あるのは、平べったい地べただけだ。その地べたに、一千万人も人間が、おしあいへしあい、虫ケラみたいに這いつくばって生きている」

「東京にやたらと高層ビルがふえているのも、東京の人たちが、その地べたからすこしでも這いあがりたいと思うからか知ら？」

「そうかも知れないな。だけど、現代人にバベルの塔は建てられない。高層ビルといったところで、せいぜい百メートルか二百メートルだ。虫ケラが、ビョンと、地べたから跳ねあがる程度じゃないか。こういう自然の山が持っている高さには、及びもつかない」

多木は、行手にそびえている六甲の山上を仰いで言った。

「人間は、ときどき、高い山にでも登って、その頂上から下界をみおろし、そこに住んでいる自分の姿を、なが

めなおしてみることがあると思うんだ。自分というものを見失わないためにね。神戸の人たちは、こんなすばらしい山を持っているけど、東京には、その山がない。だから、東京の連中は、しだいに自分の心を失っているのかも知れないな。いや。話がどうも理窟っぽくなってしまった」

多木は、自分で苦笑しだした。

しかし、彼自身にも、こうして東京をはなれて、見知らない土地で、東京というものをふりかえってみるいいチャンスだといえた。これも、旅にでることの収穫なのかも知れなかった。

どこか遠くへいきたい、と、旅にでることが、多木たち若い世代の大きな魅力になっている。これはけっしてレジャーブームなどといった流行現象のせいだけではないかった。

若者たちは、どこか遠くの見知らぬ土地へ旅することによって、ともすれば都会の喧噪のなかで見失いがちな自分の心を、とりもどそうと願っているのだ。

二人を乗せたPスポーツは、芦有道路から、六甲の尾根づたいのびている東六甲ドライブウェイにはいつていた。

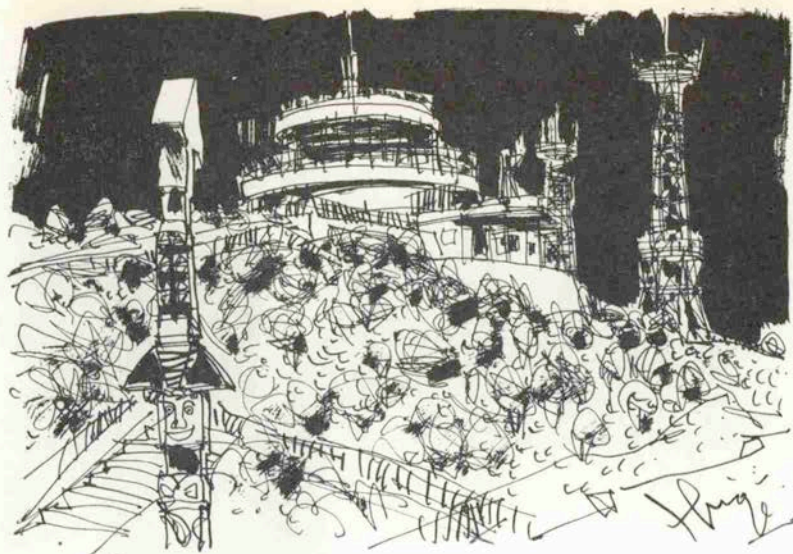
頭上は、ロープウェイの索が、ゆるやかな弧をえがいて走っている。これは、有馬へ通じている。日本で最長のロープウェイだという。なるほど、日本最長らしく、ドライブウェイにめんして、カンツリー駅という途中駅まであった。

このあたりは、表の南側よりも、むしろ裏側の有馬方面にかけての眺望がすぐれているように、多木には感じられた。

「このすぐ下に、多木さんが泊っているOホテルとおなじ経営の六甲Oホテルがあるわ。ちよっと寄って、お茶でも飲んでいきましょか」

英子が誘った。

Pスポーツは、東六甲ドライブウェイから、ひろい高



山植物園のわきを左折して、六甲Oホテルをめざした。ホテルの手前に、しゃれたレストランがあった。このレストランも、神戸の有名なクラブの経営で、夏のシーズンに店をひらいているという。

「この山は、たしかに、神戸の市民たちの裏山なんだなホテルやクラブも、ちゃんと出店をだしている」

六甲Oホテルで、ひと休みしてコーヒを飲みながら多木は、あらためて、神戸の市民たちがこの山にそいでいる愛情の深さを、この目でたしかめたように思えた。

「景色をながめながら、なにか食べたくなかったな。この

ホテル、どお？」

「もちろん、食事もできるけど、多木さん、ジンギスカン料理お好き？」

「好きだよ。ここで食べさせるの？」

「ええ。ここでも食べさせるけど、この先きに、もう一軒、Rホテルというのがああるの。Rホテルでも、屋外でジンギスカンを食べさせるから、そのほうへいってみましょうか」

コーベビーフの本場で、羊の肉を食べるのも、また一興だろう。二人は、六甲Oホテルをあとにして、六甲ゴルフ場をとり囲むようにしてのびているサンライズ・ドライブウェイにはいった。

この六甲の連峰には、こうした幾本ものドライブウェイが、縦横にのびているという。

さっき二人がとおってきた東六甲ドライブウェイは、高山植物園のわきからサンセット・ドライブウェイにつづき、いま二人が走っているサンライズ・ドライブウェイと、表裏をなしていた。

このサンセット・ドライブウェイは、さらに尾根づたいに西六甲ドライブウェイにつづき、神戸市の裏手までのびていた。

山麓からの登り口も、東の芦屋から、阪急の六甲、さらに、摩耶、再度山と、四カ所ほどもあるという。これほど美しい自然をのこしながら、これほどドライブウェイの開発された山は、国内ではめずらしかったろう。

阪急の六甲からのびている表六甲ドライブウェイは、六甲の尾根をこえると裏六甲ドライブウェイになり、芦有道路と平行する恰好で、有馬までつづいていた。

Rホテルは、このドライブウェイのすぐ近くにあった。このホテルでは、ジンギスカンを年中だしているという。二人は、さっそく屋外で、ジンギスカンのナベをかこんだ。

「空気はすんでるし、眺めはひろびろしているし、ジンギスカンも、こういう山のうでで食べると、味がちがっ

てくるな」

多木は、嘆息をあげていた。

ジンギスカン特有の臭いも、こうして開放された屋外の空気に吸収されて、ほとんど匂ってはこない。

山上のホテルでゆっくりジンギスカンをたんのうしてから、二人は、さらに、摩耶山をめざした。

西六甲ドライブウェイから、三國池を右手にして、反対側を南にくだっていくと、ユースセンターやロッジの建物があり、道をへだてて右手は、観光牧場になっていた。

二人は、ここで、しばらくたてのミルクを飲んでから、付近の山道を散策した。

「なるほど。ここからだ、神戸の街なみがひと目でみわたせる」

二人は、見晴しのいい丘の一角に、ならんで腰をおろした。

さつきとおつてきた東六甲ドライブウェイあたりからの眺めもすばらしかったが、あの辺は、東に片寄りすぎていて、神戸の街の全貌をみることでできなかった。神戸よりもむしろ、西の宮から大阪あたりの眺望がよかった。

だが、神戸の真うしろにあるこの摩耶からは、眼下に神戸の中心が望めた。ちょうど真下に、摩耶埠頭の三本の巨大な突堤が、大阪湾につきだしていた。

摩耶突堤の右手には、摩耶大橋でつながれて、幾本もの突堤が並び、そのむこうに、ポートタワーがくっきりと浮んでみえた。

突堤にも港内にも、大小さまざまな船が碇泊していて港の活気にみちた空気が、この静かな山上にまで伝わってくるようである。外国の観光船らしい、白いスマートな客船もみえた。

「いいなあ——」

多木は、港は、横浜港しか知らない。ひさしぶりに接する港の風景であった。

どこか遠くへいきたい。あの船に乗って、どこか遠くの見知らぬ国へ行ってみたい。

そんな海の旅への誘惑が、若い多木の胸に、ロマンティックな思いを浮ばせていた。

「いいなあ。港って——」

多木は、胸をふるわせようとしてつぶやきながら、思わず、英子の肩に腕をもたせかけていた。(つづく)

## ＜神戸の催し物 9 月ご案内＞

### ＜音楽＞

#### ★清ゆう子神戸特別公演

9月2日(木) P.M.7:00開演  
神戸国際会館  
入場料 A 1,500円 B 1,200円  
C 800円

#### ★ザ・ビーナッツ オン ステージ

9月9日(木) P.M.7:00開演  
神戸国際会館  
民音 会費 900円

#### ★ポートジュビリー

9月11日(土) P.M.6:00開演  
神戸国際会館  
入場料 350円

#### ★マアランド楽団

9月20日(月) P.M.6:30開演 神戸国際会館  
労音 会費 1,300円  
歌手 デュー・カソリ プログラム/碧空、夜のタンゴ、  
小さな喫茶店、ばらのタンゴ、ジェラシー、ラ・クンパル  
シタ他

#### ★伊藤京子、立川澄人、ジョイントコンサート

9月21日(火) P.M.7:00~9:00 神戸国際会館  
入場料 A 1,200円 B 1,000円 C 800円 D 600円

#### ★ヘンリーマンシーニ スクリーン・ラブ・テーマ

9月23日(木) P.M.7:00~9:00 神戸国際会館  
民音 会費 A 1,800円 B 1,300円

#### ★ジョン・ウィリアムスギターリサイタル

9月25日(土) P.M.6:30開演 神戸国際会館  
労音 会費 1,300円

#### ★新進音楽家による協奏曲の夕

9月27日(月) P.M.6:30~9:00 神戸国際会館  
入場料 700円 指揮 渡辺暁雄

### ＜演劇＞

#### ★文学座公演「にこりえ」

9月16,17,18日 P.M.6:15~9:00 神戸国際会館  
労演 会費 700円

水木洋子作 成井市郎 演出  
出演者/杉村春子、荒木道子、三津田健、高原駿雄他

### ＜舞踊＞

#### ★創設10周年記念「71兵庫県芸術祭

##### 創作邦楽と舞踊の会

9月15日(水) P.M.12:00、5:00開演 神戸国際会館  
入場料 一般 1,000円 学生 300円

#### ★藤間流舞踊勉強会

9月19日(日) P.M.10:30開演 神戸国際会館  
入場料 800円

#### ★第25回共同募金舞踊公演会

9月24日(金) A.M.11:00~P.M.8:00 神戸国際会館  
入場料 1,000円

### ＜その他＞

#### ★創設10周年記念「71兵庫県芸術祭 歌舞伎

9月6日(月) A.M.11:30、P.M.5:00 神戸国際会館  
入場料 A 1,200円 B 800円 C 500円  
歌舞伎十八番 進帳ほか

#### ★ドリフターズだよ全員集合!!

9月29日(水) P.M.2:00、7:00開演 神戸国際会館  
民音 会費 1,000円

#### ★オペラ「カルメン」全幕

9月30日(木) P.M.6:30~8:30 神戸国際会館  
民音 会費 1,200円



ジョン・ウィリアムス

現在横浜の外人墓地（神戸の外人墓地も特別に見学させていたいただきましたが）の前の「山手十番館」というレストランでアルバイトをしておりますので、横浜まできて暇があります。

小 小 柏 嘉 嘉 金 大 小 岡 岡 牛 上 榎 石 井 石 乾 砂 青 荒 朝 安  
 林 磯 井 納 納 井 淵 野 根 崎 部 尾 田 並 野 野 野 木 木 奈 部  
 芳 良 健 毅 正 元 ツ 一 真 伊 吉 將 正 成 左 信 豊 重 正  
 大 平 一 六 治 彦 ツ 夫 造 忠 子 朗 雄 一 明 門 一 彦 仁 雄 晃 隆 大

津玉田田田滝滝竹角砂塩新白雀坂阪坂古後上小小  
高井中中村宮川川中南田路谷川部口本井林藤林林泉  
和 健寛孝虎勝清 猛重義秀 昌千 時喜末英秀徳  
一操郎次介彦二一郁夫民孝雄渥介勝忠染二一雄一

神戶青年会議所  
 吉原 吉口 杉崎 上地 崎井 富水 口沢 部西 卷脇 木島 馬  
 治哉 泰辰 正裏 辰高 芳泰 專忠 幸圭 一健 準之  
 良女 弘琴 雄雄 二雄 男美 吉良 一郎 郎三 勝弘 親樹 吉助

A simple line drawing of a man with a large, pointed nose, wearing a suit and tie. He is holding a large, solid black heart in his right hand.

★神戸の文化を分野するものには、と今から毎月各分野の方々から座談会を持ちこぎ意見をきいて行こうとキーンとした企画を持っています。血の通った文化活動がでる。△小泉康夫▽Eにいた生活がです。△小泉康夫▽★「甲の山々とミナトを望む神戸」は結構ある」といわれた神戸リョクゴさん。祇園と花隈の美女に閉まれ、気候ではありました。△デイスコ45で、彼女たちがモノノ姿でゴーグルを顔のなかにビックリ。ヒダリーにショッパであったと喜ばれました。

△小泉美智子▽  
★「通いはかたなくちゃあ、お日機丸んじろ」というのを海へ山へ國山へと走ら廻つた秋のウエディングダンスが披露された。でも市内の波の旋律に、美しく、夕暮しの、かれない花嫁さぞ教わられた。アード

神戸っ子ごあんない



★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達に、神戸の香りをおとどけにになりたい方は、編集室あてにお申込み下さい。さっそくお送りします。

★月刊神戸っ子に紹介されている、神戸の銘店には、お客さまへのサービスとして神戸っ子がおかれていきます。

は左の本屋さんへどうぞ。  
コウベブックス  
ニュー漢口  
漢口堂  
漢泉書房  
漢文洋行

さんちかタウン  
京町筋  
湊川商店街  
センター街  
新聞会館1階

フラワーの長沢さん、自分の衣裳を貸して下さった方、岡山と手伝って下さった方など皆様ほんとにありがとうございますございました。 ▲高田明子V

★阪本晴氏曰く「人間はジャングルから生まれたものだから、あんまりからちぢたときみたいな所ではいい仕事ができない」とか。それで、そーです。締切間際の編集室はとていい仕事ができそうです。

△橋本 明▽

なく自然は美しいものです。大切に  
 するべきは結構特異、自然の中で大  
 いにのびのびと振るうという事にな  
 り岡山「ローケル」に。栗さにもシ  
 ェルが頭がクラクラなりながらもシャ  
 フターを切るたびにさらに美しさを  
 感じる  
 ◆短編大賞・特集「グラビアの色かま  
 へ」空は青、草木は太陽を浴びてや  
 った。園通ききき、た空気が遠くけ  
 を輝大染染といた。レイアウト結  
 切。そして、イラストを入れよう  
 ◆京都の浜田清司君は短根のクワック  
 ぶすて。朝、夕、帰りに僕って編集家へ  
 トはいかが？4時くらいかかったイラスト

日東文庫 大丸 元町通3丁目 貿易センター店  
 海文堂 元町通5丁目 国鉄本山駅北口 阪神御影南側  
 甲南堂 国鉄住吉駅北口 国鉄住吉駅北口  
 小原光文堂 新開地本通り 垂水銀座通り  
 隆司書房 明石市桜町 板宿バス停前  
 木村書店 神戸市書林 板宿バス停前  
 文芸堂書店 板宿バス停前  
 ★月刊神戸つ子に広告掲載ご希望の  
 のかは月刊神戸つ子編集室へお申し  
 し込みください。  
 ★神戸百店会の事務局も月刊神戸つ  
 子編集室内にあります。

# 神戸のうまいもんとドリンクینگ

## ★日本料理

- 阿なご寿司 青 辰  
神戸市生田区元町通3-184  
TEL 331-3435
- 讃岐名代うどん あ こ や 亭  
神戸市生田区旗塚通7-5 TEL 231-6300  
トアロード店 TEL
- 和 食 く れ な い  
神戸市生田区中山手通1-1-111  
TEL 331-0494
- かっぱう 古 紋  
神戸市生田区花陽町45  
TEL 341-0240
- 鍋もの・おむすび 悟 味 西  
神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848  
三宮さんちかタウン TEL 391-5319
- お茶漬・おむすび 煮 も の ふ る 里  
神戸市生田区北長狭通2の1  
TEL 331-5535
- た こ 焼 た ち ば な  
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572
- 和 風 料 理 楽 樹  
神戸市生田区下山手通3丁目41  
トアロード西筋淡路交差入る TEL 391-8649
- 料 亭 大 し ま  
舞合区熊内町6丁目39の6  
TEL 221-1360・1945
- 割 烹 喜 久 重  
生田区元町通2丁目82  
TEL 331-1915・391-3385

- レストラン 男 爵  
神戸市生田区中山手1-18  
山手第一ビル1F TEL 241-0778
- レストラン 花 屋 敷  
三宮フラワーロード市役所前  
TEL 251-2109
- 鉄板グリル き ゃ ん ど る  
神戸市生田区北長狭通2-22  
TEL 331-1183
- レストラン キングスアームス  
神戸市舞合区磯辺通4-61  
TEL 221-3774
- グ リ ル ケ ー ン ズ  
東店 生田東門筋 TEL 391-0159  
西店 農業会館西下ル TEL 391-3212
- レストラン コーヒー シャトーブリアン  
神戸市生田区北長狭通3丁目5番地  
トアロードアーバンビル地階 TEL 331-2050
- レストラン&サバー サン・ジュリアン  
神戸市生田区栄町2丁目11 阪神元町駅西口浜側  
100米桜荘地下 TEL (331) 9533
- グリル・鉄板焼 月  
神戸市生田区北長狭通1-24  
生田神社前 TEL 33-2509
- ビーフステーキルーム 則 竹  
トアロード ミズキビル1F  
TEL 331-9580
- イタリア料理 ドンナロイヤ  
神戸市生田区明石町32  
明海ビル地階 TEL 331-7158
- レストラン ハイウエイ  
神戸市生田区下山手2-20  
TEL 331-7622
- ビッツアハウス ピ ノ ッ キ オ  
神戸市生田区中山手2-101  
TEL 331-3545
- レストラン フ ッ ク 東 店  
神戸市生田区栄町1-5-3  
TEL 321-3207
- ティー レストラン 那 寿  
三宮トアロード  
TEL 391-1873
- レストラン ミリオナークラブ  
生田区山本通2丁目50の2  
レストラン 231-9393-5  
メンバーズ 221-1162

## ★西洋料理

- レストラン ア ポ ロ ン  
神戸市舞合区八幡通5丁目6  
TEL 251-3231
- レストラン 鹿 川〈あらかわ〉  
神戸市生田区中山手2-9  
TEL 221-8547・231-3315
- 純フランス料理 エ ス カ ル ゴ  
神戸市生田区三宮町1-22  
三宮センター街裏 TEL 331-5034
- メンバーズクラブ レストラン・コーヒョップ ルカ・カルトン  
生田区北野町3-67-2  
TEL 241-4321-4
- ステーキハウス れ ん が 亭  
神戸市生田区下山手通2丁目34  
TEL 331-7168

- レストラン・ド ボ ル ド ー  
生田新道浜側中央 KCBビルB1F  
TEL 331-3575

## ★喫茶

- フ ォ ー ク ウ ェ ス タ ン ローストシティ  
神戸市生田区三宮町3丁目22  
TEL 331-3770
- 宮 本 の に し む ら 珈 琲 店  
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70  
TEL 221-1872・231-9524  
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35  
TEL 391-0669

- modern Jazz さ り げ な く  
& Coffee 生田区北長狭2-22 TEL 331-9762

- カフェ・スポット サ ン フ ラ ワ ー  
神戸市生田区・花時計地下  
TEL 331-7794

## ★CLUB & BAR

- く ら ぶ 阿 以 子  
神戸市生田区中山手2丁目89  
TEL 331-6069
- c l u b 飛 鳥  
神戸市生田区中山手1丁目117  
TEL 331-7627
- c l u b S 〈エ ス〉  
神戸市生田区下山手通2丁目6  
TEL 331-2406・331-8993
- エ ド ワ ー ズ 倶 楽 部  
神戸市生田区北長狭通1丁目28  
ホワイトロースビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300
- c l u b 小 万  
神戸市生田区東門筋中島ビル3F  
TEL 391-0638・4386
- c l u b さ ち  
神戸市生田区中山手通2丁目75  
TEL 331-7120
- ク ラ ブ ジ ャ ル ダ ン  
神戸市生田区中山手通1丁目111  
TEL 331-8589
- c l u b ル イ ス  
神戸市生田区下山手通2丁目29  
コーベビル地下 TEL 391-5065
- ク ラ ブ 鈴  
生田区中山手1丁目111 TEL 331-2403

- c l u b な ぎ さ  
神戸市生田区中山手通1丁目111 TEL 331-8626
- c l u b 蔭〈ふ き〉  
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515
- く ら ぶ ぶ ー げ ん  
神戸市生田区中山手通1-1-111  
TEL 331-8593
- c l u b Moon Light  
神戸市生田区北長狭通1丁目24  
TEL 331-0886・391-2696
- ク ラ ブ る ふ ら ん  
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854
- ク ラ ブ ヤ ン グ ベ ル  
神戸市生田区中山手通2丁目89  
光ビル1階 TEL 331-3052

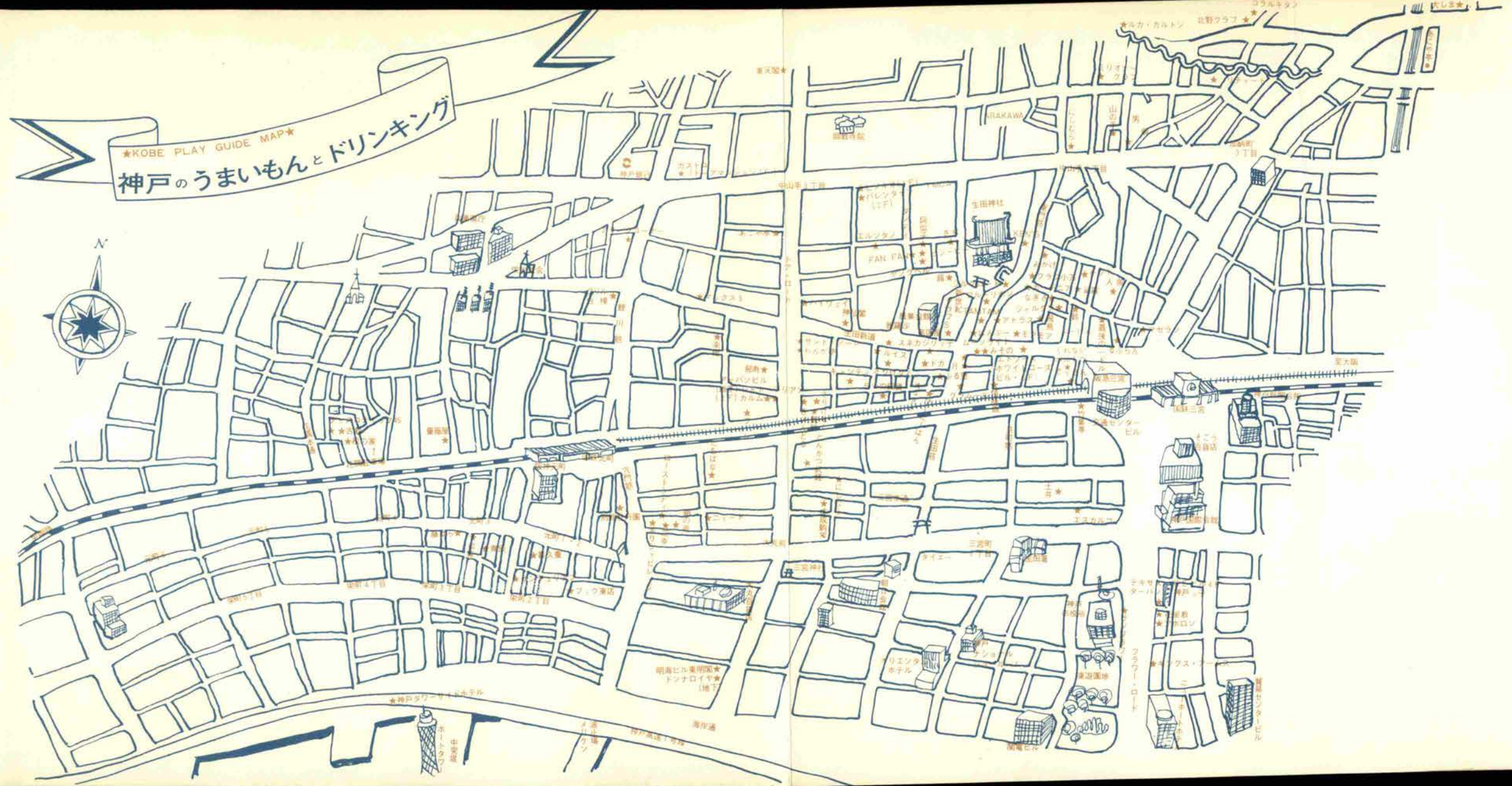
## ★STAND & SNACK

- ス タ ン ド 英 国 屋  
生田区下山手通2-6 相互タクシー横  
TEL 331-1100・331-6600
- ス ナ ッ ク エ ル ソ タ ノ  
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620
- ス タ ン ド 人 魚  
生田区中山手1-240 TEL 331-3756
- ス タ ン ド グ ラ ム ー ル  
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637
- おとぎの国 びーたーばん  
神戸市生田区北長狭通2丁目1  
金剛山南角 TEL 321-1380
- スナックバー リチャード  
神戸市生田区山本通1丁目9  
小寺マンション1F TEL 241-3041
- ス タ ン ド さ り げ な く  
生田区下山手通2丁目31  
生田筋上高地西入る TEL 331-3714
- グラタン小屋 5 つ の 銅 貨  
神戸市生田区北長狭通2-14  
金剛山西入ル TEL 391-1438
- ス ナ ッ ク ビ ジ ー ビ ー  
神戸市生田区中山手2丁目  
TEL 391-4582
- ス タ ン ド 京 子  
生田区中山手1丁目91サッポロ西隣2F  
TEL 331-6635
- ド リ ン ク 薔 薇 屋  
生田区北長狭通5丁目19-4  
TEL 351-4311

- 洋 酒 の 店 キ ャ ン テ イ  
神戸市生田区北長狭通2丁目3  
TEL 391-3060・391-3010
- DRINK スネカジリっ子  
SNACK 神戸市生田区下山手通2丁目  
水鏡ビルB1 TEL 391-8708
- Stand&Snack サントノール  
ティー&ドリンク 生田区下山手通2丁目トア・ロード  
TEL 391-3822
- 菓 舌 洞 で っ さ ん  
神戸市生田区北長狭通1丁目258  
三宮映画山入る TEL 331-6778
- S T A N D ア ト ラ ス  
生田区中山手通1丁目95  
TEL 331-5433
- ブレイスナック バレンタイン  
神戸市生田区中山手通2丁目101  
大洋ビル2階 TEL 321-2967
- S T A N D F A N F A N  
神戸市生田区下山手通2丁目29  
TEL 391-1410
- ス ナ ッ ク G A S T O R O  
神戸市生田区中山手通3-20  
トアマンション TEL 231-0723
- ス タ ン ド クラブ・ガーデニア  
神戸市生田区中山手通1丁目115  
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329
- S N A C K 山 の 手  
神戸市生田区中山手通1丁目  
ツネビル1F TEL 221-3637
- 淳子の店 娑 (SARA) 羅  
生田区中山手1丁目91  
TEL 391-1647
- ス ナ ッ ク ダ ン デ イ  
神戸市生田区・農業会館西筋上ル  
天野ビル2F TEL 331-6450
- S N A C K B A R マ ゼ ラ ン  
神戸市生田区加納町4丁目1  
TEL 391-2366
- s n a c k M O R E M O R E  
神戸市生田区中山手通1丁目107  
TEL 331-4728
- レストラン・バー 最後の1ドル  
神戸市生田区北長狭通1丁目  
チエリービル3F  
三宮生田新道山側 TEL 391-2173
- PIZZA & Snack マ ッ ク ス 5  
神戸市生田区下山手通3丁目16三福ビル2F  
TEL 391-8959

★Kobe PLAY GUIDE MAP★

# 神戸のうまいもん＆ドリンキング



LET'S SING!

*Gratin hut*

DIAL 391-1438



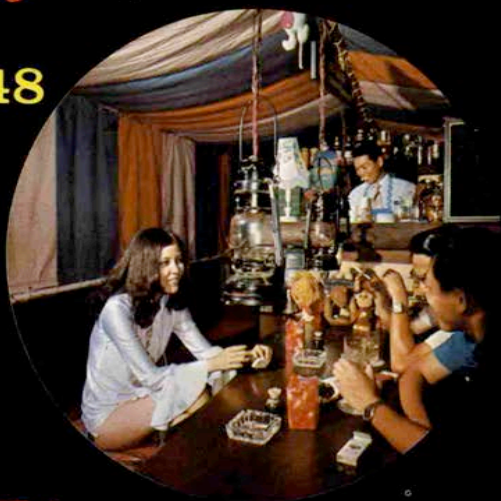
LET'S TALK!

*Dream house*

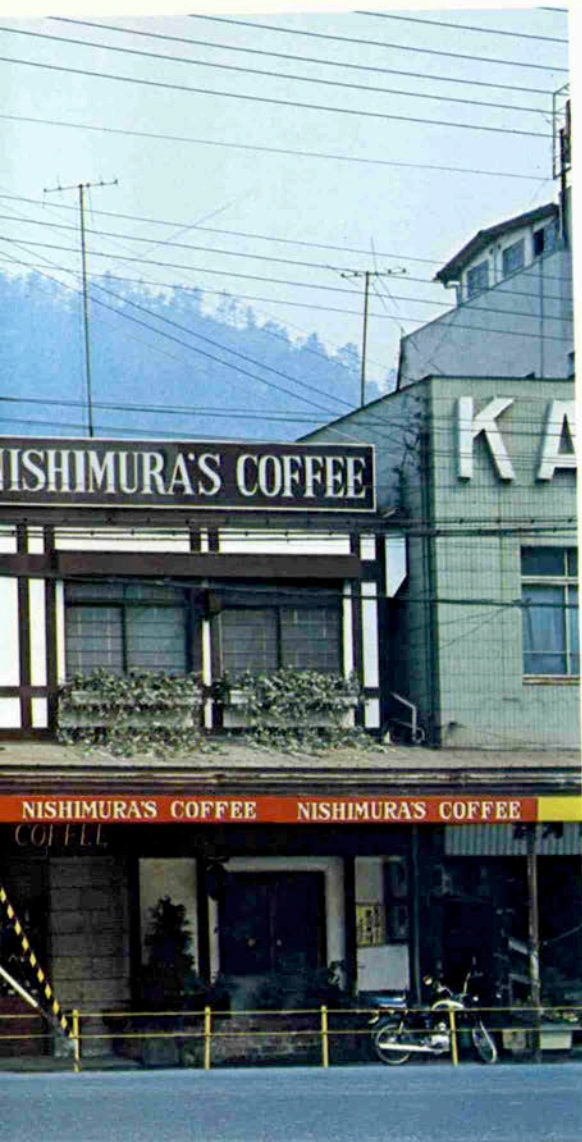
DIAL 321-1380

*Robber's house*

DIAL 321-1548



LET'S DRINK!



中山手／にしむら



異国情緒が懐しい中山手通り

宮水COFFEE《にしむら》の

煉瓦造りの焙煎場から漂よう

ほのやかなCOFFEEの香りに

さわやかな神戸っ子の日があるのです

宮水COFFEEの

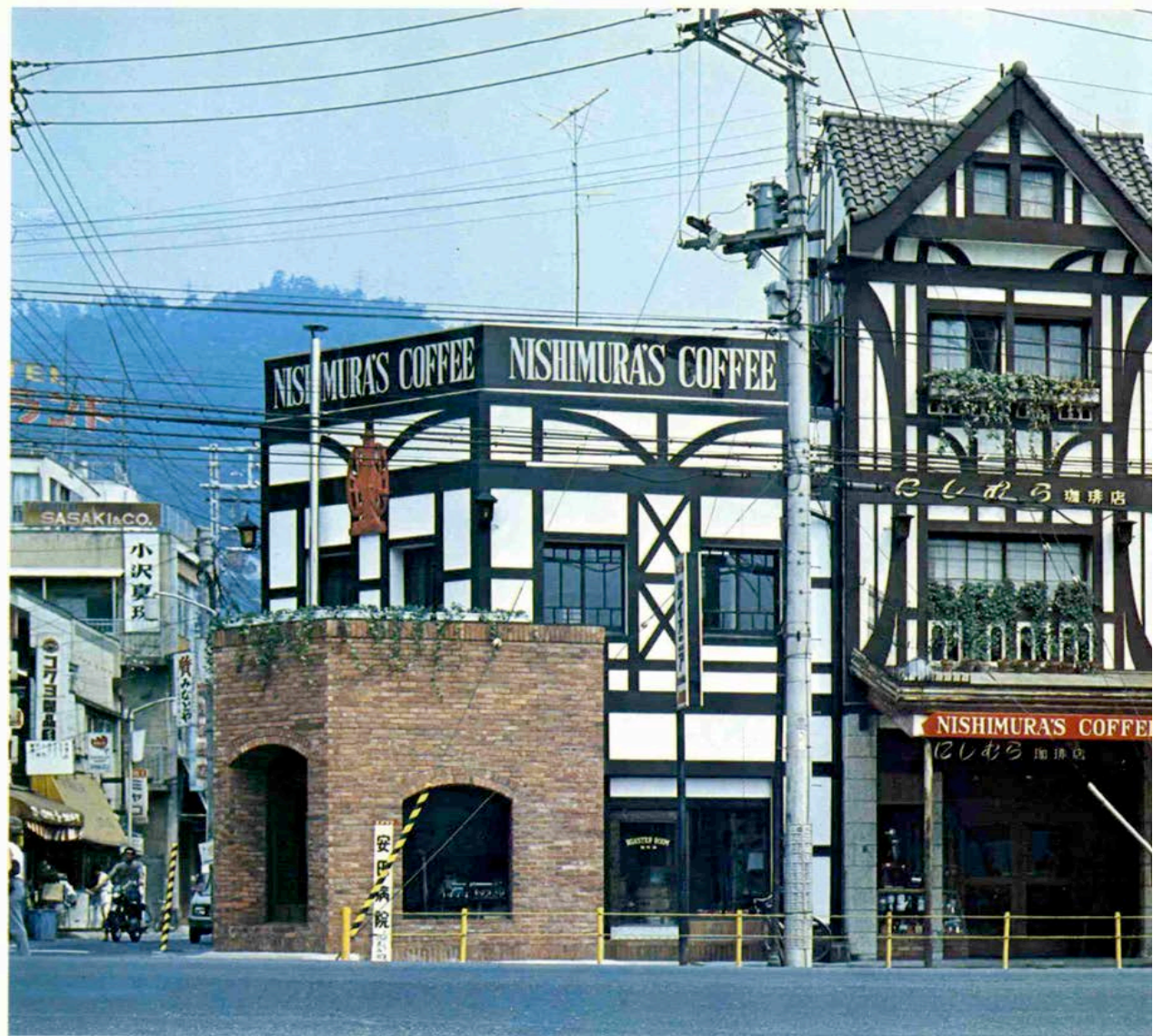
にしむら 珈琲店

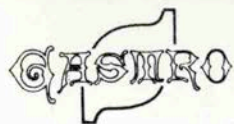
中山手本店〈中山手1丁目電停前〉221-1872

営業時間／平日、午前8時30分～午前1時、日、祭日、午後11時迄

センター街店〈三宮センター街〉391-0669 午前10～午後10時

石屋川店(阪神石屋川駅浜側)841-0763 午前8～午後10時





神戸市生田区中山手 3-20  
東亜マンション 1F  
TEL 231-0723



club

ジュイス

生田区下山手通2-29  
コウベビル 地下  
TEL 391-5065

## KOBE DRINKING GUIDE

### TEA & PUB

L&M

生田区北長狭通  
生田新道ビル地下  
TEL 321-3070



### TEA & SNACK

MAX5

生田区下山手通 3 の16  
三福ビル 2F  
TEL 391-8959



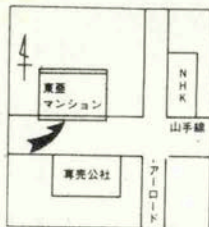
★トアロードに今度完成したNHK神戸放送会館の西、東亜マンション1Fにオープンしたのが本格派の個性的なスナック「ガストロ」だ。ガストロとはイタリア語で胃袋という意味だそう。食べて、飲んで、おしゃべりして、おもしろい楽しんでもいただくというわけで、こんなスナックが神戸にできたのは本当に嬉しい。大きなけやきのカウンターと店内のゆったりとしたスペースが飲む人に落ち着きを感じさせる。火、木、土、日の午後7時から11時までエレクトーンの生演奏もある。

Tea Time (A.M.11:00~P.M.6:00)

コーヒー¥150円、ジュース¥200円、カレー¥200円、スパゲッティ¥200円

Wine Time (P.M.6:00~A.M.1:00)

ビール 200円、オールド 350円 年中無休

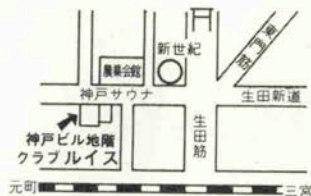


ガストロ

★夕やみせまる生田新道のネオン街に、勤めを終えたサラリーマンが態のひとときを求めてルイスに足をこぶ。

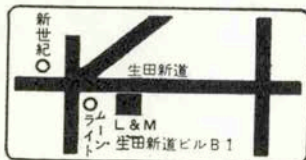
生田新道、神戸ビル地階にあるクラブ「ルイス」はデラックスなインテリアとムードあるスペースでハイモードのクラブの雰囲気を感じてくれるグラスを傾けながらかわす会話があなたをつつみ、時間の経つのを忘れさせてしまう。神戸で初めての Hammondオルガンが飲む人の心に音楽とリズムをよびおこし、ホステスとお客様とがひとつになって楽しめる場所、それはルイスだけのものです。こんな素晴らしい仲間にお入りになりませんか。

日曜・祭日は休みです。



ルイス

KOBE  
DRINKING  
GUIDE



L & M

★心よい初秋の夜風をぬって、仕事を終えたサラリーマンが生田新道界隈に吸いこまれていく。生田新道沿い、ムーンライト東隣りの生田新道ビル地下にヤングマン待望のスナック「L & M」がオープンした。赤を基調とした落ち着いたインテリアと、こじんまりとしたスペースは、肩を並べ、ひざを交えて飲み、話し、未知の人と友達になれる絶好の場所。酒のグラスを傾け、美しい音楽の調べに耳を傾け、心ゆくまで楽しみたい人が気軽に集える場所、それがこの「L & M」だ。

ビール¥250円、紅茶¥250円、コーヒー¥250円、ピッツァ¥450円

P.M.5:00~A.M.12:30まで 年中無休

マックス5



★「MAX 5」 このカッコイイ名前のスナックが生田新道沿い、三福ビルの2階にあるのをご存知だろうか。トン、トン、トンと階段をあがり、扉を開くとスティーブ・マックインの大きなパネルが目にとびこんでくる。こじんまりとしたスペースに若者たちのビッドな、雰囲気があふれ、たちまち知らないもの同志が意気投合してしまおう、そんなセンスにあふれている店だ。カウンター席の他にテーブルもあるので飲みながら落着いて話もできる。ヤングマンなら知っておいで損はない店だ。

コーヒー¥150円、ビール¥200円、ビザ¥400円

P.M.5:00~24:00 第1、第3日曜日は休み